

2024年6月5日

Press Release

報道機関 各位



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46

広報室 TEL : 0798-45-3533

kohos@mukogawa-u.ac.jp

学生が建築やインテリアを実際の住宅で学ぶ 「暮らしのラボ」が完成。

空き家の新たな活用法としても期待されます。

生活環境学科の学生たちが、工法や構造を体感しながら設計や施工、インテリアを実践的に学ぶ「暮らしのラボ」が誕生しました。築60年以上の大学所有の民家を授業で安全に使用できるよう、躯体部分を大学が整備。4月から大学院生らが和室のリノベーションに取り組んでいます。全国で増加する空き家の積極的な活用方法としても期待されています。

住宅は木造二階建て。一階にDK、和室と洋室があり、二階は和室2室があります。ラボとして使用するにあたり、大学が事前に耐震補強を含めた下記の工事を行いました。

床や天井に隠れている小屋組みや基礎、土台、大引、根太などの構造を「見える化」するため、浴室の天井や天井下地、床などを撤去。2階の和室は床を一部撤去して「吹抜」にし、二階の床下と一階の天井裏が見えるようにしました。また、温度や湿度の変化をみる実験に対応するため、随所にカーテンレールを取り付けました。また、一階洋室は、学生の作品の展示会場に使えるよう、ホールを土間にしたり、洋室とDKを行き来する通路を作ったりして開放的なスペースにしました。

こうした準備を経て、4月から学生による活用をスタート。大学院修士1年生の前田果歩さんを中心に、建築サークル「BAU」、生活環境学科有志を合わせた約10人が1、2階の和室2室のリノベーションに取り組んでいます。

コンセプトは「非力な女子がホームセンターで入手できる用具や建材を用いて DIY する」。学生たちは、材料をホームセンターで調達し、珪藻土の塗装も自分たちの手で行っています。1階のテラスに面した6畳和室は洋風にリノベーションするため、土壁の壁面の一部を板張りに変更。学生たちは土壁に下地を縦に打ち込み、細長くカットした杉板を横に貼りつける作業に奮闘しています。床は畳の上からフローリング調のウッドカーペットを敷く予定です。2階和室はもとの暗めの色の土壁のうえに珪藻土を塗り、ベージュ色の明るい空間に一新し、障子も張り替えます。

大学院修士課程では、リノベーションの設計を一級建築士の受験資格に必要な実務経験に相当するカリキュラムの一部に設定しています。前田さんは「学校の中で実務ができるので、移動に時間がとられず、集中できるので助かります。土壁に漆喰を塗る作業は初めてで難しく、DIYに入る前に図面を描いていた時には分からなかった大工さんの苦労がわかりました。以降は家具を入れたり照明を工夫したりして、暮らすための家に進化させていきたい」と話しています。

また、建築サークル「BAU」代表、生活環境学科4年濱中璃美花さんは「図面上で設計した床や天井が実際にどのような厚みや空間になるかが体感としてつかみにくかったけれど、ここでは直接目で見て、構造の意味を感じ取ることができ、貴重な経験になります」と話しています。

生活環境学科は選択するコースによっては1級建築士や2級建築士を目指す学生が多く、これまでも既存の団地や古民家でリノベーションをしたケースはありますが、一般的な民家で継続的に実習できる施設を自前で持つのは初めて。生活文化やデザイン、照明などを学ぶ学生にとっても住宅の制約と可能性をリアルに感じる機会になり、より実践的な学びにつながることを期待されます。

【お問い合わせ先】

本件についての取材のお申込みは下記までお願いいたします。

■武庫川女子大学広報室

【電話】0798-45-3533

【メール】kohos@mukogawa-u.ac.jp

